

平成 26 年 1 月 28 日

各 位

東京都渋谷区恵比寿一丁目 19 番 15 号
株 式 会 社 オウケイウェイヴ
代表取締役社長 兼 元 謙 任
(コード番号:3808 名証セントレックス)
問い合わせ先 取締役経営管理本部長 野 崎 正 徳
電 話 番 号 03-5793-1195

特別利益の計上、第 2 四半期累計期間および通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、子会社である株式会社オーケーライフ（本社：東京都渋谷区、代表者：浅見彰子）の株式の一部を譲渡することとし、下記のとおり関係会社株式の売却にかかる特別利益が発生する見込みとなりましたのでお知らせいたします。

また、特別利益の計上に加え、最近の業績動向を踏まえて、平成 25 年 8 月 14 日に公表いたしました平成 26 年 6 月期（平成 25 年 7 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日）第 2 四半期累計期間業績予想および通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 特別利益の計上について

当社の連結子会社である株式会社オーケーライフの株式の一部を譲渡し、平成 26 年 6 月期第 3 四半期以降に関係会社株式売却にかかる特別利益約 225 百万円を計上する見込みです。

2. 株式譲渡の内容

①譲渡前の当社保有株式数	33,000 株（議決権保有比率：65.5%）
②譲渡株式数	25,000 株
③株式会社オーケーライフの発行済み株式数 （譲渡先による第三者割当増資を含む）	62,400 株
④譲渡後の当社保有株式数	8,000 株（議決権保有比率：12.8%）
⑤譲渡先	株式会社フェイス
⑥関係会社株式売却益	約 225 百万円

3. 譲渡の理由

株式会社オーケーライフは、当社グループにおいて、「OKMusic」を運営している連結子会社です。「OKMusic」は、楽曲配信と楽曲やアーティストへのロコミ投稿、閲覧のほか、音楽ニュースを配信するソーシャルミュージックメディアとして利用者の支持を得てまいりました。

今回は、株式の譲渡先が「OKMusic」に積極的に関与することを前提に、当社にて慎重に検討した結果、株式会社フェイスに資本参加いただくことが、「OKMusic」の今後の発展に寄与すると判断し、当社が保有する株式の一部を譲渡することとしたものであります。

4. 子会社株式の譲渡にともなう取締役の辞任について

本件株式譲渡に伴い株式会社オーケーライフが当社連結子会社から外れることにより、当社の取締役に就任しております浅見 彰子は、平成 26 年 2 月 28 日をもって、当社取締役を辞任する予定です。

5. 連結業績予想

(1) 平成26年6月期第2四半期累計業績予想（平成25年7月1日～平成25年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	一株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,884	△133	△133	△133	△15 45
今回修正予想 (B)	1,610	△230	△225	△190	△22 06
増減額 (B-A)	△274	△97	△92	△57	
増減率 (%)	△14.5%	—	—	—	
(ご参考) 前期実績	773	△75	△68	△305	△35 48

(2) 平成26年6月期業績予想（平成25年7月1日～平成26年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,435	235	235	198	23 01
今回修正予想 (B)	3,400	△160	△150	12	1 39
増減額 (B-A)	△1,035	△395	△385	△186	
増減率 (%)	△23.3%	—	—	△93.9%	
(ご参考) 前期実績	2,698	△94	△97	△361	△42 06

6. 修正の理由

(1) 第2四半期累計業績予想

平成26年6月期第2四半期の連結業績予想につきましては、「OKWave」などを運営するソーシャルメディア事業において、広告単価が想定を下回り推移するとともに、子会社での新サービスのリリース遅延が発生し、売上高が想定を下回る見込みとなりました。また、企業向けサービスを提供するエンタープライズソリューション事業においては、一案件当たりの導入単価は想定通りとなりましたが、新規導入数が期初想定を下回り、売上高が業績予想を下回る見込みとなりました。

利益面につきましても、全社的なコスト削減に努めておりますが、売上高未達の影響を補うまでに至らず、業績予想を下回る見込みです。

(2) 通期業績予想

平成26年6月期の連結業績予想につきましては、スマートフォン向けの課金制モバイルサイトを新規にリリースしたことや、Q&Aを軸としたサービスラインナップの拡充、上期に実施したマーケティングの効果により業績回復の兆しが見えるものの、上期実績を勘案し、通期業績見通しにつきましても見直すことといたしました。加えて、営業アウトソーシング事業において、光回線販売市場の縮小が想定よりも早く、業績予想を下回る見込みとなりました。

営業利益、経常利益につきましては、連結子会社における組織最適化に向けた費用が引き続き発生することにより、当初想定を下回る見込みとなりました。なお、当期純利益につきましては、関係会社株式売却にかかる特別利益を計上する見込みですが、当初想定を下回る見込みとなりました。

(注) 上記に記載した業績予想数値等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。従って、実際の業績等は業況の変化等により、上記の予想数値と異なる可能性があります。

以上